

邑南町まち・ひと・しごと創生総合戦略 2020

～多様な力で地域の未来を拓く～



邑南町は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

令和2年3月策定

（令和7年1月改訂）

5. 交流と暮らしを支える利便性の高いまち

人口減少や少子高齢化が少しずつ進行していく中、将来にわたり安心して暮らしていくため、移動手段を安定的に確保していくことは重要な課題となっています。

移動手段の確保に向け、町営・民営バス等の路線維持や、安全性と利便性に配慮し、利用者の目的に応じた持続可能な生活交通システムの構築を目指します。

また、人の移動に限らず、本町での暮らしを支える持続可能な物流ネットワークの構築に取り組むとともに、実情に応じた輸送形態の在り方を検討し、物流の安定化を図ります。

今後の人とモノの流れの安定化に努め、生活基盤を維持させることで、各地区での小さな拠点づくりの取り組みを促し、暮らしやすく持続可能な地域を目指します。

(1) ひと・もののネットワークの構築



【基本的方向】

- 市内の公共交通について、便数や時間帯による利用者数を勘案し、地域の実情に応じ持続可能な交通網を構築し、利便性を確保します。
- MaaS※1等へ交通機関とその他サービス情報を連結させ利便性の向上に努めます。
- 道の駅瑞穂を物流拠点と位置づけ、物流ネットワークの充実を図ることで、物流機能の弱体化を防ぎ、物流の安定化を図ります。
- 自動走行システム等に係る先端産業分野の事業展開を促進し、民間活力の導入による貨客混載も含めた物資等の配送体制の確立を検討します。

指標名	基準値	目標値
デマンド系運行の登録者数	110人 (2019)	400人 (2025)
町営バス情報サイトへのアクセス数	7,200件/年 (2019)	15,000件/年 (2025)
具体的な施策		協働施策
■ 邑南町バス路線再編実施計画に基づく公共交通ネットワークの再編	継続	
■ 配食サービスの展開	継続	○
■ JR西日本と共同で取り組むデマンド運行システムの実証実験	新規	○
■ 道の駅瑞穂を拠点とした貨客混載システムの検討	新規	○
■ 無人配送機能活用事業	新規	○

(2) 小さな拠点機能の整備



【基本的方向】

- 地域運営の現状と課題を整理し、課題解決に向けた地域住民の知恵の出し合いや合意形成、計画づくり等をサポートし、小さな拠点機能整備を支援します。
- 住み続けられる地域として、生活に欠かせない機能やサービスを継続・維持させていくため実践を支援します。
- 拠点を越えた連携を要する機能やサービスについては、拠点間の連携が円滑に進むよう支援し、交通結節点の整備といった公共機能充実を図ります。

指標名	基準値	目標値
小さな拠点形成数	0ヶ所 (2019)	5ヶ所 (2025)
交通結節点整備数	0ヶ所 (2019)	3ヶ所 (2025)
具体的な施策		協働施策
■ 「小さな拠点づくり」モデル地区推進事業（再掲）	新規	○
■ 小さな拠点の形成推進	継続	○
■ 協働による交通結節点・地域拠点の整備	新規	

※1 MaaS：ICTを活用して交通をクラウド化し、公共交通か否か、またその運営主体に関わらず、マイカー以外のすべての交通手段による移動を1つのサービスとしてとらえ、シームレスにつなぐ新たな移動の概念。